

導入企業インタビュー 福岡ソフトバンクホークス様

健康経営のための
ヘルスケアプラットフォーム



気軽に相談、
いつでも頼れる。

健康についての「ちょっと困った」に、
いつでもお答えします。



導入企業インタビュー

福岡ソフトバンクホークス株式会社様

福岡ソフトバンクホークス株式会社は、プロ野球球団を保有・運営しており、年間を通じて様々な興行を手掛けています。

その運営を支える従業員の健康を守る取り組みの一環として、「HELPO」を活用しています。

今回は導入の経緯や利活用について、人事部ディレクターの中川原弘朗様にお話を伺いました。



—HELPO を導入された経緯について教えてください—

従業員の健康への取り組みに関する状況として、当社では法定の健康診断やインフルエンザの予防接種などは毎年行っていたものの、それ以上のことに積極的に取り組んでいるわけではありませんでした。もちろんプロ野球チームを運営する球団側では、選手の食事面をはじめ、健康に関する様々な取り組みが行われていますが、一般の従業員に関しては、「健康経営」と言えるほどのことは正直まだできていません。

ですので、今後会社として健康経営を訴求していけるよう、取り組みは改善・拡充していきたい。そういう課題は人事部として持っております。しかし、喫緊の問題として新型コロナウイルスの流行がありましたから、まずはそこに対処する必要がありました。

そうしたなかで弊社は、ソフトバンクグループが立ち上げた「SB 新型コロナウイルス検査センター」を活用し、2020 年 10 月から従業員の PCR 検査を毎週実施していくことにしました。その PCR 検査の予約から検査結果通知までのオペレーション部分を担っていたのが HELPO でしたので、包み隠さずに言えば、その流れで HELPO を導入したことになります。

—PCR 検査の状況と HELPO の活用について、教えてください—

はじめに検査体制における背景からお話すると、社内では毎週 PCR 検査ができるよう体制を整えていて、社員は月 1 回のサイクルで PCR 検査を受けています。なかには業務の関係で週 1 回受けている方もいます。毎週検査をおこなうことで、臨時で受けたい場合にもすぐ対応できますし、社員からは「安心できる」という声をいただいています。

昨年 10 月に PCR 検査を開始した時点では、すべて手作業で予約の管理から検査結果の通知まで行っていました。検査に関する同意書の取得、予約の変更はメールで連絡を受けてスプレッドシートを都度更新、検査結果に関しても自動ではなく担当者からメールで通知したりと、手間のかかるオペレーションでした。しかし 11 月に HELPO が導入されてからは、一連の対応がすべてアプリでできるようになったので、検査を受ける社員側も、検査を管理する我々人事側も、お互いにとって負担が減りました。この一年間でも HELPO の UI は進歩していて、どんどん使いやすくなっています。

—2021 年 6 月からはワクチン接種支援オプションが始まりました。

こちらについてはいかがでしょうか？

おかげさまで、「HELPO ワクチン接種支援オプション」を利用して、従業員へのワクチン接種を早期に完了することができました。HELPO のアプリから簡単に予約を取れる仕組みなので、スムーズに進みました。

私たちはサービスのテスト運用段階で活用したため、最初は現場のオペレーションに 10 名ほど必要でした。当初は受付で来場者にアプリの画面を見せてもらい、管理ソフトが入った PC に受付番号を入力して照合する必要があったため、混雑（密）を招かないよう受付に 3～4 名が張り付いていたんです。さらに接種後の手続きでも同様に 4 名、そして待機場所で 3 名のスタッフを置いていました。

しかし、1 回目接種の途中で、こちらからの要望も含め、HELPO がすぐシステムをバージョンアップしてくれて、アプリの QR コードをかざすだけで瞬時に受付ができるようになり、受付は 1 名で、会場全体も 3～4 名でオペレーションを回せるようになりました。

もし HELPO を活用していなかったら、職域接種の運営にはかなりの手間や人員が必要でした。迅速に対応いただき感謝しています。

HELPO がサービスを拡充し、企業の PCR 検査とワクチン接種予約における機能を支援してくれたことにより、早急にコロナ対策をおこなうことができました。



—コロナ禍で社員の健康に変化はありましたか？

在宅勤務を推奨しており、良い面もあるのですが、一方で「自分のリズムが作れない」「上司とのコミュニケーションがとりづらい」などの理由から、20～30 代の若手社員を中心に、在宅勤務の働き方に不安を覚える社員も出ています。まだまだ極端に増加しているわけではないですが、産業医に寄せられる相談件数がやや増えているので、会社として真摯に受け止めて、対応していかなければいけません。

HELPO では医療チーム内に保健師さんもいらっしゃるでしょうから、悩んだときの選択肢のひとつとしてオンライン相談が活用されるといいなと思っています。健康に関するちょっとした不安など、わざわざ仕事を休んでまで病院に行くのは抵抗がある方や、メンタルヘルスに関する相談など、休憩時間に気軽にチャットで、また匿名でも相談できるのはありがたいですね。もちろん個人情報なので相談内容はこちらでもわからない仕組みになっていますが、積極的に活用してもらえると我々としても嬉しいです。

—「健康経営」についてどのように考えていらっしゃいますか？



「社員の健康管理」を課題として掲げた時点で、長期的視野に立って考えるべき問題だと思っています。ある社員が入社してから定年を迎えるまでの約 40 年間に對して、会社としてどう向き合うか。今は健康管理は自己責任となってしまっていますが、これから会社が成長していくうえで、社員の健康増進にどう取り組んでいくのか、どの程度投資し、コストをかけるのか。企業として新しい価値を創造していくためにも、その土台となる社員の健康づくりにも戦略的に取り組む必要があると考えています。

ただ、社員の健康に関する情報って、これまでのあり方では、法律で義務付けられている健康診断の情報や、希望者が受ける産業医面談の情報とか、それくらいしかないんですよ。もちろんそれらも個人情報ですので、本人が内容開示を希望しなければ、我々にも情報は入ってきません。

個人のプライバシーも守りつつ、会社として社員の健康管理を行っていくには、やはり何かしら情報のプラットフォーム的なものがないと難しいと思うんです。

—今後の HELPO にどんなことを期待していますか？

HELPO に期待するのは、まさに今申し上げた健康情報のプラットフォーム的な役割です。健康診断を毎年実施していても、自社の傾向など、これまでのあり方ではまったく見えてきません。例えば、生活習慣病の予備軍が、割合的に多いのか少ないのか、前年より増えているのか改善されているのか、喫煙者の割合はどうなのか、傾向がわかれば刺さる打ち手も考えられます。社員個人のプライバシーを担保しつつ、健康情報を活用・分析して、健康経営につなげていくというのが課題かなと思うので、その部分で HELPO が企業向け健康情報の総合プラットフォームとして今後のサービスを展開していくのであれば、使い勝手がいいのかなと思っています。

また、アプリユーザーである社員側からみても、健康診断結果の管理や、体組成計と連動した測定データ、毎日の食事やアクティビティデータなどを一元管理できると、例えば HELPO でオンライン相談を利用する場合においても、より具体的なアドバイスが受けられるのではないのでしょうか。これまでのあり方では、健康情報が断片的なものになってしまっているので、個人も HELPO を使ってヘルスケアデータをトータルで管理していけるようになれば、生涯的な健康情報のプラットフォームとして機能していくのかなと思っています。

